

刊夕日六廿月二

常磐毎日新聞

定価 一部全紙 月金五拾圓 郵費五圓
 廣告料 五圓以上 一行 日金五拾圓
 日曜 保日の 週日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞印刷局



泥濘

長瀬生

濡れた街は夕暮近い曇天の光にせわしげに動いてゐた。舗道の並木からは未だ滴がぼたぼた落ちた。子供がもう飛び出て走り廻つてゐた。街は雨からの開放と夕方の氣ぜれしさを味つてゐるのである。

務を終へてはつとした彼は、その瘦せたやゝ背丈の高いつて人々の流れの中に入つて行くのであつた。その面長な蒼白い顔は、一日の仕事を仕遂げた喜の外に何か一つの陰影を持つてゐるかのやうに見えた。眼はいつも舗道と人々の足しか見なかつたが、別にそれを意識してゐるのでもなかつた。

「やあ君。」

といふ聲と共に彼のいゝ加減色の褪せた背の肩がぼんと叩かれた。彼は吃驚して不安氣な色を漂はせた眼を上げるのであつた。聲をかけたのは彼の古い級友Kであつたのだが思ひ出さなかつた彼は、一寸戸惑つて顔を赤らめた。

彼は餘り喋舌らなかつたので級友は友の多い方ではなかつたKとは殆んど話もしなかつたが何年か振りて昔の顔見知りと會ふのは一寸嬉しい心持もした。彼は通りの喫茶店に入つて知己でもあつたかのやうにそのレコードの音も、人々の美聲も話聲も、煙草の煙も意識せぬ位に話し込んだ。彼等は少くとも彼は、長い虐げられた人生の道で誰でもよい、友達を話相手を持ちたかつたのであらう話が進んで行つた。

「時にどちらにお勤めですか」

Kは横肥りの大きな體をボックスによりかゝらして

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

「朝」味噌汁——さ、かき牛蒡 小付 煮豆

「晝」芋棒(棒鮭と里芋)

「晚」かき御飯(かき貝炊込み) 清汁——三つ葉 玉子もち

人のいゝ笑を浮べて話すのであつた。彼は現在の自分の境遇を思つてはつとしたものゝ、Kの悪げのない様子に思はずつり込まれて

「××銀行に勤めてゐるのですが、どうも……」

「ハッ、ハッ、お互ひ

様ですわね」

彼も一緒に笑つてはゐるものゝ、心の或淋しきとどんよりしたものは己をいつはることは出来なかつた

「うんざりする程見ても、自由にならないつて、譯すねハッ、ハッ、」

彼はぎくりとした、その硬くなつた顔の様子が我ながら變なのを意識して、相手に悟られはしなかつたかと恐る／＼Kの圓い顔を見上げながら彼は唯々笑つてゐるだけであつた。無理強ひな笑ひか泣いてゐるかゝりに、顔に横かつて行つた。

こんな數時間前の事を彼は全然第三者であつたかのやうにくど／＼と思ひ出しながら、郊外の彼の家への道を急いでゐるのであつた。新開地の道は悪くその上長靴は彼の膝と脛とにむつとむせるやうな不愉快とどんよりした感傷を與へてゐるのであつた。

「うんざりする程見ても自由にならない」

それは苦しい反感であつた。この言葉は彼の長靴がぬかるみをびしゃびしゃと歩くにつれて一步、一步と心に喰ひ込んで行くのではなかつたかと思はれる程であつた。

専門科
 産科 婦人科 花柳病科
 入院隨意

井坂醫院
 平町田町 電話五五九番

有給社員募集

一、地方擴張ノ爲男女十數名募集ス
 固定給ノ外歩合アリ
 一、資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス
 但シ誠義奮闘家ヲ望ム 希望者ハ午前中當出張所へ面談アラレタシ

野村生命保險株式會社
 磐城出張所 平町長橋町四七
 主任 福島 健之

しもやけ家專藥

是マデしもやけハ... ナラネバ治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ一日二三回二三日ノ御使用デクダシ治リマス。

現今ノ塗藥トハ異リ專法ニヨリ根本カラ除去スルモノデアリマス。

しもやけハ寒サ、爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデアリマセン、又クずれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同時ニ痛ミヲ感ジタリカゆミヲ増シタリ致シマスガ此藥ハ無刺戟ノ中心地良イ專法ニヨリ皮下ノ血行ヲ良クシ幼キ御子様方ニモ喜バレ如何ニクすれは非一度御試シドサイ。

東京丸井邦寶堂
 平町一丁目
 福島兩縣特約 伊藤石炭店
 電話三四九

魚清のサビス

たらちりなべ	三十一錢	さしみ御飯	二十五錢
ちりなべ	三十一錢	天ぶら御飯	三十錢
あなごなべ	三十一錢	海老天ぶら	四十錢
親玉のよせなべ	三十一錢	御飯吸物付	三十五錢
かきなべ	三十一錢	海老天ぶら	三十五錢
ねぎなべ	三十一錢	海老フライ	三十五錢
煮込なべ	三十一錢	天井	二十錢
鳥なべ	三十一錢	親子井	二十錢
牛なべ	三十一錢	すし	二十錢
なべ豚	三十一錢	ちらし五もく	二十錢
かきフライ	二十五錢	御子様すし	二十五錢
かき酢の物	二十五錢	まぐろすし	二十五錢
あんことも酢	十五錢	鐵火井	二十五錢

定食
 四品 五十錢
 三品 五十錢
 五品 八十錢

●出前持大至急人用

平二警察署裏通り
 魚清食堂
 電話六六三三

石炭 豆炭

阿部石炭店
 平驛前
 電話十七三番

花環 神佛葬具
 盛花
 久壽玉
 御弔燈
 寶明燈

造花屋
 平新橋
 川本
 電話一六三

郡下産一組 擴大強化す 縣下最高の機能

石城産業組合部會で十二月末現在で調査した郡下の産業組合は三十組で人員が一萬一千八百八十人、總出支額は九十四萬六千五百五十圓に達して居るが組合員の職業別を見ると農業が断然多く七千四百七十七人、商工業その他が三千五百八十三人で農家が最大の經濟機關としての機能を發揮して居るが郡下組合の細目は

組合員 一五四〇四四三圓
貯金額 一七三六五四〇圓
貸付額 一七三六五四〇圓
等て去る昭和八年より開始されてから四年目の今日組合の未設置町村は三阪、永戸兩組合村、上遠野の三村のみで本郡産組の活動は縣内最高の好成绩を示して居る

最終農事講演 神谷農演と修了式 串谷農分場は十年度最後の特別傳習會を來月八日開き同日午後から郡山農試本場の江上場長が臨席して修業生五十五名に對し修得證授與式を行ふ

十一年度豫算に 小名濱町上水道 調査費四千圓計上

小名濱上水道は既報の如く十一年度に敷設準備を終了十二年度に完成することに成り十一年度豫算に調査費四千圓を計上したが最近小名濱商港の完成を控へて工場その他計画の調査を進めてゐる中央方面の大資本家が相當あるが何れもこの設備なきため調査を中止する様な状態に鑑み至急實現を期すことになつたもので着工は準備が終了次第開始されることとなる模様である

消防組第一部幹部古川明長坂本組頭等は自動車唧筒購

入視察の爲め明二十七日東京栃木縣方面に出張する

健全財政確立せよ 新豫算編成に戒告

起債漸減を縣が獎勵

十一年度の郡内各市町村豫算案は總選舉で一般に遅れ目下編成中だが農村景氣は若干見直したとはいへ多額の借入を背負こんでゐる自治體として到庭積極豫算は望み得ない状況にあるので縣では近く全市町村に對し前年同様徹底的緊縮方針をとるやう通牒を發することになつた

本郡指導 平町小學校 學期末打合せ

早くも第三校で

酒造年度の實地指導と清酒吟醸貯藏法の指導の爲め會津工業試験場の竹内技師は廿五日平町二十七日高久平

平町各小學校の打合せ會は今二十六日午後一時から第三小學校に開き學期末の行事其他種々協議した

魚肥標準改正や 船員養成講習會

縣水産總會で決定

本縣水産會通常總會は廿五日午後一時縣廳會議室に開き十一年度豫算一萬二千一百圓五十錢の船員養成講習會

啓中上級校合格者

啓中に於ける今年度上級學校入學試験合格者は目下の處左の如くである

第一校學藝會 平第一小學校兒童學藝會は來る二十九日開かれる

平町人事 回出生 回死亡

各校卒業試験 啓中の卒業試験は昨日終了したが平商の卒業試験は今二十

謹啓父康五郎儀病氣之處藥石無効二十五日午後一時死去致候間此段御通知申上候

追而葬ハ來ル二十七日午後一時自宅出棺長橋町性源寺ニ埋葬可致候 昭和十一年二月二十六日

耳科專門 大和田醫院

親戚 阿部康雄 阿部吉 阿部卯 阿部政 阿部彌 阿部松

友人 横山芳助 横山松助 横山榮助

總代理人 關内

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

耳鼻喉科專門 大和田醫院

平町 南町 一六(電話一七〇)

安齋外科醫院 平町・田町 電話四七五番

店主が店員を連れて行かせる 正シイ喫茶 正シイ食堂 正シイ酒場

平・田町 レストラン 電話三五二番

賣口の好い平商に

縣外から志願者の群

不景氣は此處にも現はれる

平商の新學年生徒募集は來る三月一日より開始されるがこれに先立ち早くも今二十六日迄に茨城縣多賀郡關本小學校及精華小學校を始め其他より十餘名の志願者あり受附子を面談せてゐるこれは同校卒業生の賣れ行き良好のもたらした影響で此分では締め切迄には募集人員百十名の三倍位になるものと見られる

磐炭平發電所

愈々竣工

第二發電所は六月送電 磐城炭礦は工費七十五萬

あはや血の雨

一步前で御川の風

泥酔テキヤの仲間喧嘩

昨廿五日午後五時頃平町南町料理業金澤屋方に泥酔登樓した同町播磨小路居住テキヤ大平節藏(三)同町阿部考(三)兩名は些細なことから口論となり激昂した阿部は同家臺所にあつた菜切庖丁と出刃を持ち出し危や血の雨を降らせんとしたが急を聽いて逃げつけた平署員に難なく忍傷一步前で逮捕された

降雪で

木炭値上り

各家庭は嘆く

需要期にある平地方の木炭は本月初旬未曾有の降雪で運搬の途を絶たれた爲相當値上りを見せてゐるが又廿三日の降雪あるや一月下旬頃と比較して約十銭から十五銭の値上が行はれたので一般需要家の各家庭では目先の利に走る木炭商人に

まんまと

四百五十圓

口一つで騙る

平町三丁目油商横山彰介方へ昨年十二月廿五日訪れた水戸市久保町中里義次(三)は揮發油九百ガロンを賣る約束で内金四百五十圓を受取つたまゝ一滴も渡さず廿五日平署へ横山から詐欺罪で訴へた

漁夫の假面に蔭れ

コソ泥數件を働く

發覺して小名で逮捕

四倉仲町生れ江名町字中之作字植作野吉松方古川三之助(三)は去る十九日夜半同町漁業吉田善三方に忍び入り現金六十九圓及び腕時計一ヶを窃取したのを始り二十三日迄前後四回に亘り町内を荒した事發覺二十五日夕小名濱派出所に檢舉された

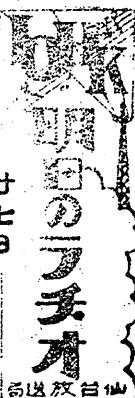
列車で重傷

植田町

宇金畑北郷ナカさん(四)は廿三日十時五十分頃同町八幡神社に参拜し歸途線路上を通行中上り列車に刎ね飛ばされ氣絶同町上田病院に加療中だが生命危篤

平町で水産會

協議實務講習 既報 本年度より改正される漁業組合組織に就いて縣水産會は平



今晩は晴明日も同様

今晩の部

- 後六〇〇 子供の時間
- パイプオルガン 東京日本橋三越より
- 後六二五 基礎英語講座
- 後七三〇 講演と實驗谷
- 藤元一他慶大醫學部生理學教室より
- 後八〇〇 新内「明鳥」
- 富七松春夫他
- 後八二〇 俣高橋由子
- 後八四〇 民謡と新小唄
- 秋田市川反舞妓連
- 後九〇〇 ビアノとストリングス
- 朗読交響樂團他
- 演奏所より
- 後九二〇 時報ニュース
- 氣象通報
- 番組預告

明日の部

- 前七〇〇 基礎英語講座
- 氏内三造
- 前七三〇 朝修養道
- 元禪師の御生涯(四)
- 山本曹原
- 前九〇〇 衛生メモ
- 前九二〇 料理談
- 鳴戸巻口 曾根うめ子
- 前一二〇 家庭講座
- 「家庭と各属の知識」阪大教授 高橋清
- 宮内省 浪花節「宇都宮釣天井」小倉井太郎
- 後二〇〇 小學生等四國語の時間 對話劇「冒とからだ」東京科學コードモ
- 後二四〇 小學生等五の時間 唱歌鑑賞 東京市中目黒小學校兒童
- 後六〇〇 子供の時間
- お話と朗讀「ロングフェロー」竹友藻風
- 後六二〇 講演「大久保彦左衛門の家傳」山本吉之助
- 後七三〇 講演「滿洲農業多民とその生活」山崎芳雄一滿洲移民の將來に就いて 宗光彦
- 後八〇〇 ラヂオドラマ
- 銀座交誼社講堂より中繼
- 後九〇〇 大衆物語「籠抜け銀次」ト栗島狭衣

縣水産會

各郡分賦額

本郡は五百廿五圓
甘縣水産會十一年度經費分賦額は左の如く決定した
△石城郡五百廿五圓 △双葉郡五百十二圓 △相馬郡二百二十四圓

女房を囮りに

前借詐欺

抱主憤慨して告訴 平町新川町居住無職信夫郡清水村生安齊吉次(三)は去

女優にあこがれて

湯本の千代丸疾走

足取りを晦ます探偵劇實演

湯本町大字三函一五一藝妓置屋壽事大平長次方抱藝妓千代丸こと新瀉縣生れ長谷川マス(八)は不斷から俳優になりたいたと口癖に云つて

魚市場町營

江名で計畫

近く先地視察 江名町ではこの程小學校に財源調査會を開き町當局者町議その他有志約卅名出席各々持寄りの案に就き検討を重ねた結果魚市場町營が各地で好成績を挙げ隣接地小名濱町でも實施し居るのに鑑み同町でも之を行ふこととし漁業組台長加澤一造氏外七名を委員に擧げ先進地の視察その他調査することになつた

學校増築

人絹景氣擴大

錦村小學校は人絹工場建設と相俟つて愈々狹隘を見られるので同村では校庭擴張四教室教員室應接室等を三萬圓増築する事となり豫算三萬圓と計上し明廿八日の村會に提出する事になつた

男女工見習

右至急募集す

希望者來談あれ 常磐毎日印刷會社 長橋町 電話六三〇

木村病院

平町新川町十九 電話一六四番



続る解瓦解の謎

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(書)

五七 奥山に返咲き
松平新十郎とおたきに説かれてお花はこゝに心機一轉したが尼となつて三島三郎の菩提を弔ふも嬉しくない、そこで再び淺草の奥山で茶店を出すことにした。何がさて淺草の一名物と言はれたお花が一時姿を消したため名花を散らしたと土地のものは力を落したが、再び奥山にこの美しい花が開くことになり、いや大層の評判、日毎に店も繁昌する、朝から夕まで押しよせる客の中に本所割下水に屋敷のある徳川の旗本青木彌太郎、これは幕末の頃名を聞けば泣く子もだまると云はれた人物この青木がお花を愛した、しかしいやらしい關係は微塵もない、お花の男らしいその氣性を愛すまた彌太郎は幕府の直參でありながら讓夷を主張して同志のものをあつめる、この中に水戸の浪人岡田盟といふものがあつたがこれが彌太郎に

岡「青木殿、貴公は幕府の家來ではないか、幕府は外國人のために港を開き貿易を許し、この日本の國體を打やぶりしかしてこの

は徳川家はたはれることになる、よく今の時勢を見るがよい、京都にあつまり居る浪士または大名の家來共はじよう夷を主張して幕府を攻撃しながら彼等は今日も集會、明日も協議と申し茶屋酒のみひたつてゐる、まじめにこの事について働き居るものは至つて稀である、大名の家臣どもに禁裡お手入れと號して主人よりその費用を取り上げし、かして京女郎、戯れて居るこれらをも志士といふか、又國士といふか、實に憎む



針にそむいて讓夷を致さむとは理窟に合はぬ様と思はれる」
彌「イヤそれについてはいふべきこともある幕府のなすがまゝにして置くも讓夷を口實にして幕府を攻撃するものが多くなり、つひに

より他に策はあるまい」といひまはし、岡田もこれを聞いてこれは尤もなこゝろ、こゝで青木の一舉に加はるることになつた、幕府にもかういふ人物が居りました、青木は五百石を領して堂々たる旗本、劍術にも達しことに柔術はもつとも得意です、私も二三度會つたことがあるが見上げるやうな大兵で、すこみのある風采、若い時分には強かつたであらうと思ひました、維新後に豊明で寄席を出して青木亭といひ大分客も來ました、晩年王子に引きこもつて樂隠居ではりました、まづ幕府をかざる名物男、次ぎに青木はこのじよういふを斷行するには運動費に要するこの金をあつめることについて非常手段を行ふ目的が善であらば手段の善悪は問はぬとの意向、するとこの頃は悪いことをして金まうけをする者が多い外

國人に小判をうつてまうけた者もある、一兩小判がアメリカのドルで二兩二歩になる、倍以上の利益があり、ますそれですから資金のあるものはどしどし小判を買ひ込む(私の親父にも今の内に小判を買へとすゝめた者が大分あつたさうですがその當時はこんな法にそむいたことをせずとも、どしどし金がかうかると時ですから買なかつたといひました、これ、これ、莫大な利益を求めたものも多く、また法律にそむいて外國人へ賣り込んだ品物で、不正な利を得たものもあると、それらを青木が探り、まづ奸商征伐をしてじよういふの運動費を得やうと考へた、すると大傳馬町の大坂屋庄兵衛といふ貿易商が外國人に小判を賣りました國禁の品々によつて巨利を占めたと聞いて第一番にこゝへ押しよせることにした。

福島縣平町二丁目

西村屋藥舖

藥師 鈴木堅助
電話 三三番
振替 東京六・二九九
仙臺一・二〇一

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木正男
平町町 (電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需め、應ず
入院の便あり

皆様の足? 尼子タクシーへも豆タクが入りました
御立關から立關へ 迅速簡便
是非御利用を

宮行 直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします
平町二丁目
尼子自動車商會
電話 六四〇番

是非!

御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます

三井質店
平・四電六〇六番

かまぼこ造
お惣菜用
さつま揚げ
吉原揚
平町一丁目
電話 一四一番